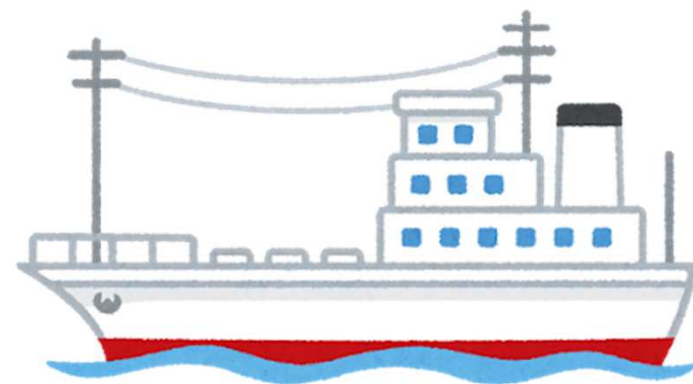


漁海況予測システムの開発

背景

- ・ 本県漁業は、シラスやハモ、ワカメなど多数のブランド水産物を生産
- ・ 生産面では「**新規就業者の確保**」や「**操業の効率化**」が大きな課題
- ・ 持続可能な水産業の維持・発展を図るべく、
県では、最先端の観測機器を搭載した
「新たな漁業調査船」の建造に着手するなど、
水産業のスマート化を推進



目的・目標

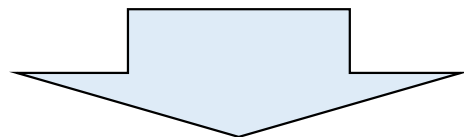
- ・ 操業の判断や、漁場の選定に役立つ予測情報を配信する
「**高度な漁海況予測システム**」を開発
- ・ 若手からベテランまで、
「**誰もが、スマート水産業を実践できる環境**」を整備

取組概要

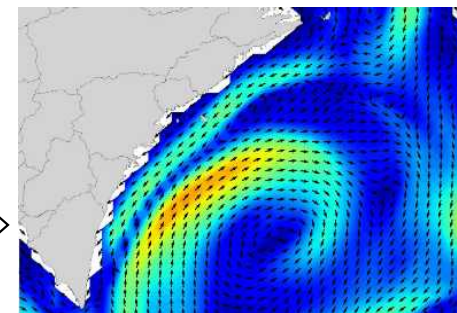
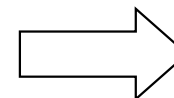
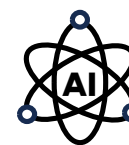
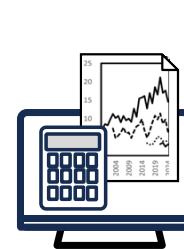
① 調査船による海況観測・卵分布の調査結果と漁獲量の関係をAIに学習させ、**船曳網漁の好不漁を予測するモデルを開発**



② 潮の流れが複雑な小鳴門海峡において、水温などの観測情報をその海況特性を生かして解析することにより、**養殖ワカメ漁場の海況予測モデルを開発**



③ 開発した予測モデルをもとに、**わかりやすい形態に加工・描画し、Webで公開するシステム**を構築



配信する漁海況予測情報（イメージ）

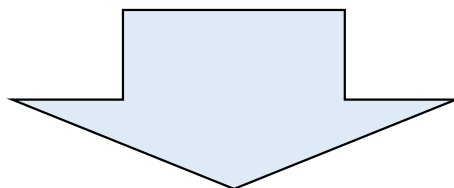
メンバーと役割分担

- **徳島県立農林水産総合技術支援センター（リーダー）**
 - ・ 漁業調査船や観測ブイの収集データの分析
- **阿南工業高等専門学校**
 - ・ 海況予測モデルの開発・高度化
- **協力漁協船曳網漁業者**
 - ・ 予測精度の実証、使用感のフィードバック
- **システム開発企業**
 - ・ 予測システムの加工・描画
 - ・ 漁海況予測情報の公開用プラットフォームの構築

成果の社会実装に向けたアプローチ

プロジェクトで開発する**漁海況予測システム**

- 予測対象の漁種・藻類養殖に係る県内漁業者を中心に、広く出前講座や体験型の研修会などを開催し、普及啓発
- 令和10年以降は、新たな漁業調査船による調査が開始し、得られる**膨大な調査データの解析結果を予測モデルに反映**



本県水産業のスマート化を加速